

平成28年度 都市経済常任委員会視察報告について

委員長	田代和誠
副委員長	古賀敏彦
委員	佐々木益雄
委員	松村京子
委員	佐藤尚武
委員	田中登志雄

標記の件につきまして、次の通り報告いたします。

- 1、視察先、テーマ
- ①茨城県行方市 10月12日(水)
「観光物産館「こいこい」について」
 - ②秋田県横手市 10月13日(木)
「食と農からのまちづくり事業について」

2、内容報告

◎茨城県行方市

平成17年9月に麻生町・北浦町・玉造町の3町が合併して市制を施行。総面積222.38km²、人口36,316人、

観光物産館「こいこい」の現地視察

地場産業の振興と観光PRを目的として整備され、外観は霞ヶ浦に浮かぶ帆引き船をイメージして作られました。敷地面積3,718m²、建物面積480.45m²、販売面積105.3m²で、物品販売（農作物・水産加工品・畜産品・民芸品）とイベントやPR事業が主な取り組みです。平成27年度の施設利用者は

147,840人(商品購入者)、年間総売上金額は174,221,000(登録料5,000円：登録会員数140名)

- ・年間130万人から150万人が訪れ、市内1割、市街9割で県外が3割。
- ・出産物は、農産物45%、農産加工品18%、水産・水産加工品23%、畜産品5%、工芸品%。
- ・6次産業の取り組みは、米農家がおにぎり・餅・煎餅等に加工。漁師・水産業者が佃煮・煮干・甘辛煮等に加工。

運営方法

指定管理者制度を取り入れ、民間の活力とノウハウを活用した質の高い市民サービスの提供と経費削減を目的とした管理運営が行われている。平成24年12月からは、一般財団法人「行方市開発公社」に施設管理、販売管理、出荷者管理、物産品と観光PRを業務委託している。

運営委員会を立ち上げ、メンバーとして行方市の関係各課の部長・課長、指定管理者の開発公社、出荷者代表の正副委員長、観光協会、商工会等で組織されています。

体験型農業テーマパークの民間施設である「なめかたファーマーズビレッジ」を訪問し、常務理事より施設の説明及び案内を受ける。

◎秋田県横手市

平成17年10月に旧横手市・北浦町・増田町、平鹿町、雄物川町、大森町、十文字町、山内村、大雄村の1市5町2村が合併して市制を施行。総面積692.80km²、人口93,816人、

食と農からのまちづくり事業

コンセプト：横手らしさの原点であり、横手市全域の共通財産である「食」と「農」からを最大限に活かした、まちに元気をもたらそうという取り組み

基本方針

- ①横手の豊かな自給的食文化を継承し発展させる。
- ②横手の豊かな自給的食文化から発信と挑戦を行う。
- ③横手の豊かな生き物を守り育てるエコ農業や環境創造型農業を推進する。

「食と農」チームプラスY活動（地産地消・食育）

旬菜みそ茶屋・クッキングスタジオ・旬野菜食べ方実演会・PR番組放送・各種フォーラム開催や給食事業、ビジネススクールの開催など、まちづくりの取り組みを様々な形で発信し、特に東京圏・仙台圏に直売場の設置やスーパー「サカガミ」との包括連携協定、さらには海外（シンガポール・香港）へのプロモーションの実施を行っている

横手市実験農場・よこて農業創生大学

横手市産品の更なる品質向上を図るための横手市実験農場を建設し、よこて農業創生大学を作り新規就農者の育成研修を行っている